

新たな教育課題を推進するための教員養成と埼特研

～「全ての学校で全ての子に特別な教育支援」の学校文化を支える教員の意識づくり～

元埼特研会長・星美学園短期大学客員研究員 服部純一

1. 明治初期の教育制度を支えた教員養成

(1) 学制により新たな学校制度の教育の近代化を推進する基盤

◎明治5年に教員養成機関のモデルケースとして東京師範学校を開設



- ・長野県松本市の開智学校には筑摩県師範講習所（長野県師範学校）を併設
 - ・新たな小学校教育を行いながら同時に教員養成と現任教員の教育を展開
 - ・開発主義教授の意義や唱歌・美術など新たな教科に関わる指導を広めた

(2) 松本開智学校における特別支援教育の創始

◎東京師範学校に始まり長野県師範学校などの教員養成学校で進められた開発主義教育の教育思潮が、学校教育の現場で教員の研修と共に実践研究されていった。

- ・松本開智学校の能力別編成の学級による特別学級と就労自動への特別な教育支援を創始
 - ・能力別学級編成「成績不良児学級」を実施（明治22年）
 - ・「成績不良児学級」は日本障害児教育史の文献で見られる「落第生学級」という表現になったが、実際は知的障害や健康障害のある児童への特別支援教育だった。
 - ・子守り奉公をする女子への「子守り学級」、商店の奉公人への夜学として「丁稚学級」、料理屋への奉公や芸妓修行の女子への「裏町学級」などの特別な支援を実践。

2. 特殊教育の成立と教員養成

(1) 第二次世界大戦後の特殊教育の創設と教員養成

◎アメリカ合衆国から派遣された教育使節団によって「特殊教育」の概念はもたらされた

- ・「特殊教育教員再教育講習会」など文部省主催講習会など現任教員への養成講習を実施
 - ・昭和22年に戦後第1号となる行田町立埼玉小学校に虚弱児学級が設置される
 - ・文部省主催の特殊教育指導者講習会参加者などが結集し、埼特研を結成した



きっかけは官製講習会だが、教員同士の研鑽が教員の現任養成となったことの意義

(2) 特別支援教育での民間教育団体としての埼特研の貢献

◎特別支援教育担当者の大学での教員養成コースが確立する前から、現職教育によって障害児教育の専門家を養成していった

- ・県の教育課程研究協議会と埼特研の同時開催によって県内担任者の実践研究に寄与
- ・昭和54年の養護学校義務化や難聴言語学級・情緒障害学級などの拡大に埼特研は対応

3. 特別支援教育時代の実践研究を支える埼玉県特別支援教育研究会の意義と課題

◎研究協議会に幼稚園・保育園分科会、高等学校分科会、通常学級における特別支援分科会、など、特別支援教育の守備範囲の拡大に対応し、幼児・児童・生徒の特別な教育支援ニーズに関わる全ての教職員の実践研究を包含する研究団体として活動してきた



特別な教育支援はそれぞれの子どもの特別な教育ニーズに対応した支援を展開すること

- ・これまで特別支援教育に関わってこなかった教員の特別な教育支援への理解と実践を拡大
- ・教育実践や今更聞けない基本的な事項に、具体的に教員の疑問に答えて教員の情報提供を